

地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	長野県軽井沢町	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	軽井沢文化遺産発信事業		【計画の改善時期】 平成 33 年度
4 実施計画期間	平成 31 年度 ～ 平成 35 年度 5年以内としてください。		
5 実施計画の概要			
<p>雄大な浅間山にいだかれ、緑豊かな自然に恵まれた高原のまち軽井沢。明治以降、美しく清涼な自然と気候に感嘆した外国人先駆者たちによりその魅力が発信されてから作家や詩人といった多くの歴史的文人たちが訪れ、日本を代表する国際保健休養地として愛されてきた。</p> <p>今や日本を代表する避暑地となり定着したが、その形成の過程において強く影響を与え礎になっているのは、かつての街道と宿場の歴史と、そこから生まれ育まれてきた豊饒な文化である。そのひとつが、江戸時代に、中山道と北国街道の分岐点であった信州追分の宿（軽井沢町）の飯盛り女たちが、碓氷峠を往来する馬子のうたう馬子唄に三味線の手をつけた芸能であり、「追分節（信濃追分）」とよばれて、東日本を中心に各地に伝わり伝承されている。</p> <p>当時は街道沿いの宿場町として語り継がれるほど繁栄し、今に遺す歴史的価値の高い多くの有形・無形文化財が生まれたが、時代の推移とともに現代ではその存在が希薄となり継承が危ぶまれている。</p> <p>軽井沢町まちづくり基本条例の第1条では「先人が築きあげてきた軽井沢町の財産である緑豊かな自然歴史及び文化を守り育てながら後世に継承すること並びに個性豊かで活力にみちた地域社会の実現を目指す」とあり、地域の貴重な文化財の保全と継承を重要な目標と課題のひとつとして設定している。したがって、本事業は「文化の力に抛り町民が一体となり新たな地域社会を実現する取り組み」「従来ない町の新たな価値を創出・再発見し新たな地域ブランドをつくり上げる取り組み」と位置づけ、国内の多くの人々や多くの外国人観光客に選ばれ愛される町づくりにむけて、日本らしさと地域の独創性をテーマに人々や町の文化財を有効に活用し事業を展開する。</p> <p>【5箇年事業計画】</p> <p>本事業においては、地域の伝統技能「追分節」と「熊野皇大神社太々神楽」の舞台公演を設けながら、各年のテーマを時代ごとの歴史と文化で設定し、5年間をかけて軽井沢町の歴史と文化の全貌を伝える。</p> <p>1年目：「追分節」の公演/テーマ：江戸時代の歴史と文化 2年目：「熊野皇大神社太々神楽」の公演/テーマ：中世の歴史と文化 3年目：「追分節」の公演/テーマ：古代の歴史と文化 （効果検証と成果を確認し計画を見直す） 4年目：「熊野皇大神社太々神楽」の公演/テーマ：明治時代の歴史と文化 5年目：地元伝統芸能すべての共演/テーマ：全時代の集大成</p> <p>【平成31年度事業計画】</p> <p>1. 軽井沢町文化遺産フェスティバルの開催（伝統芸能の公演） 2. 軽井沢町伝統芸能の体験ワークショップの開催（次世代への継承）</p>			
6 実施体制			
<p>軽井沢町が本実施計画に係る全体の企画・調整ならびに、本事業に係る指導等を行う。</p> <p>主な担当と役割は以下のとおり。</p> <p>文化課：事業全体の調整、文化財の取扱い等に関する指導・調整等 観光課：観光業務に係る連携等</p> <p>本事業実施は以下の団体が行う。</p> <p>「軽井沢文化遺産発信事業実行委員会」（委員長：軽井沢町長 藤巻進） 委員会構成：軽井沢町、軽井沢町教育委員会、（一社）軽井沢町観光協会</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 0 千円	平成31年度申請額： 5,707 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	

9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）

【普及啓発】

■シンポジウム

永く継承されてきた地域固有の歴史と文化を考え学ぶ機会を得ることで、町民が地域の魅力を再発見し、文化財の有効かつ有意義な活用方法を開発することができる。知識や経験の習得とともに、意識と責任感の高まりが団結と連携を生み、保全・継承における強固な体制の構築を実現する。また、これにより町民自らが強力な発信者となり、全国、海外とのコミュニケーションが活性化される。

■伝統芸能の公演

地元伝統芸能保存会の多くは年々上演機会が減少し、その場が地域の祭礼などに限られてきている。会員の高齢化も進み課題が多い現状で、他地域の団体との共演と交流により、多くの観客を前に披露することで、自身が地元伝統芸能の価値を再確認できることと、誇りと愛着、そして継承への意識が高まり、今後の活動の活性化が期待できる。

■体験ワークショップ

高齢化が進む伝統芸能保存会において、若年層の入会促進は重要な課題である。小・中・高校生が若いうちに地元の芸能に触れる機会を与え魅力を伝えることで、今後、子供を中心とした若年層の入会者数増大が期待でき組織の安定と発展につながる。

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）

事業概要：	
事業概要：	
事業概要：	

11 「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

なし

12 担当部局

地方公共団体 担当部局課	軽井沢町教育委員会 生涯学習課 文化振興係
-----------------	-----------------------

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分1:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分1:	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標1:	町の文化遺産(国・県・町指定の有形無形文化財)地域への来場者数			関連事業: ①②		
目標値1:	【現状値】平成30年度 23,000人 ⇒ 【目標値】平成35年度 33,000人					
設定根拠1:	平成29年度軽井沢町の観光入込客数の伸び率1.1倍を参考に前年度伸び率1.1倍と設定					
進捗状況1:	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分2:	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分2:	地域に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標2:	町民意識調査「文化財の保護・継承意識(想定)」の割合			関連事業: ①②		
目標値2:	【現状値】平成30年度 65% ⇒ 【目標値】平成35年度 83%					
設定根拠2:	今後町民意識調査を実施し(初年度を65%と仮定し)、以後毎年1.05%増加と設定					
進捗状況2:	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	
%	%	%	%	%	%	
目標区分3:	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分3:	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標3:	地元の伝統芸能保存(追分節保存会、熊野皇大神社太々楽)への新規入会者数			関連事業: ①②③		
目標値3:	【現状値】平成30年度 0人 ⇒ 【目標値】平成35年度 300人					
設定根拠3:	現状で保存会入会者は減少している。31年度を初年度に各団体30人(子供・外国人も含む)増加を最大目標値として設定					
進捗状況3:	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	
人	人	人	人	人	人	

